

1997  
8 月号

AUGUST  
No. 325

花と緑と水のまち  
広報  
みまた

上段と下段左  
町内の小・中・高生18名による福祉施設奉仕作業  
下段右  
仮屋地区の小学生と父母による資源ごみ回収



特別養護老人ホーム「三光苑」



三股町老人ホーム「清流園」



三股町通所福祉作業所「ひまわり作業所」



長田小体育館前のごみ収集場



いきいきさん (14)

一刀に掛ける  
私の人生

山元 甚平さん

鬼面、翁、べしめ(しかめっ面をした顔)、小面(無表情な女性の顔)など木彫りの面を作成して16年、今やその数は二百六十点に及ぶという高畑にお住まいの山元甚平さん(78)。  
その切っ掛けを「パチンコ人生に見切りをつけるために始めただけだ」と、にこやかな表情で話されます。  
昭和56年、児童相談所に勤めていた佐藤さんと知り合い、手作りの木彫りの面を拝見。「あの時、残された人生を面づくりに掛けてみようと思いました」。早速、佐藤さんから専門書を借りて、彫りの深い翁の面づくりに挑戦することに。「うまく作りたいという気持ちだけが先行して、悪戦苦闘の連続でした。半年掛けて、ようやく完成した時のことは、今でも忘れられません。今、改めて見ると恥ずかしくなるような作品ですけど……」。その作品は、現在も大事に保管してあります。

山元さんは、この時、百の面を作成することを目標にしました。そして、数年が経過、目標を達成した時、さらに二百を目標に、そして三百を……と夢は広がりました。次第に、のみを扱う腕も上達し、二百を超すころには、10日ほどで一つの作品を完成させるまでになったといえます。  
「出来上がった作品のほとんどは、知人に差し上げています」。山元さんの優しい人柄が伺えます。  
昨年、町内の小学校に教材用として、3種類の面を作成して贈られています。「学校に贈る面は、その地の風景や風土をイメージして作成しています。自己流なので、出来栄は今一つです」。

山元さんは、面の製作だけに満足せず、仏像づくりを学ぼうと、平成7年4月から2年間、日南市内の木彫教室に通われました。そして、今年の4月からは、末吉町の木彫教室に通っておられます。「面とは違って、仏像は立体なのでバランスをとるのが大変苦労します。いま、心を新たに挑戦中です。木彫りは、やればやるほど、奥が深いことを実感させられます」。

三股町の人口  
平成9年8月1日現在

男	11,270人	出生	19人
女	12,497人	死亡	13人
計	23,767人	転入	92人
前月比	+21人	転出	77人
世帯数	8,426戸(+10戸)		

●今回の取材で、あさみさんのお母さん、そしてあさみさんを支援している方々の話を聞いて、改めて、「人間は、多くの人の支えがあって生きているのだ」ということを痛感させられました。  
「成長の過程には、だれだって迷惑は付きものです。あさみさんにさりを指導している井野文さんの言葉は、特に印象的でした。  
●昔から二十日(9月1日)には、台風が襲来するといわれています。万一の災害に備えて、非常持出品の用意や避難施設の確認をしてみたいかがでしょうか。  
M・Y

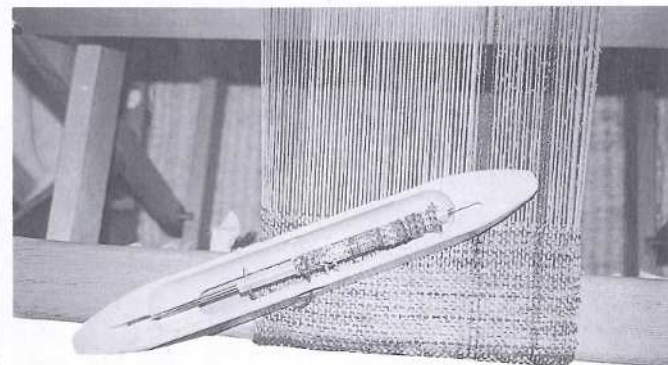
情報募集中  
身近な話題や広報紙に関するご意見ご感想などありましたらお知らせください。  
役場総務課秘書広報係  
☎52-1111 内線222



「さをりを開いた自立への道

「こだわりの美」こそ私の人生

「さをり」。それは、大阪に住む城みさをさんが二十数年前にあみだした織りの手法で、日本に古くから伝わる織り技術の既成概念にとらわれず、その人の感性に任せて、どんな糸でも使って、織り込んでいくものです。さをりは、知的障害者の自立への道を開き、いま、アート作品として注目を集めています。そのさをりを仕事にしている一人の女性がいま、名前、下沖あさみさん、二十一歳。今市に両親と弟の四人で暮らしています。自宅の八畳の部屋においてある織り機からは、次々に作品が生み出されていきます。どの作品もやさしい色合いに仕立て上げられ、心の温もりが伝わってきます。



# 真剣に向き合っていくことからはじまった

あさみさんは、昭和五十年十月、父渡さんと母憲子さんの長女として三股町で生まれました。言葉がしゃべれない、行動がおかしい、「自閉症」と診断されたのは、あさみさん三歳の時。

なぜ私の娘が・・・、その時のショックは、口では言い表せないほどだったと憲子さんはいいます。戸惑い、悩み、泣きわめく日々が何日も続く・・・。

しかし、泣いていても娘の障害は良くならない。そう思い直した憲子さんは、これからは、あさみさんと真剣に向き合って生きていくことを決意したといいます。

それから、憲子さんとあさみさんの二人三脚の生活が始まりました。「公園に行つて、一人ですべり台に乗り、私だけがをしたこともありました。大きな建物を見ると、火が付いたように泣きだすので、建物の見学を二週間、毎日続けたこともありました。とにかくいろいろな経験をさせました。そのことによつて、娘の行動や心理状態を理解することができ、一番

楽しく接する方法を取り入れることができました。娘の言葉は理解することはできませんでしたが、同じ言葉を返してやると、安心するようでした。今でもこれは続いています。

四歳を迎えたあさみさんは、幼稚園に入園しました。最初の一年間は、幼稚園の生活になじめず、週の二日間を都城市内にある福祉施設「ひかり園」で過ごしました。憲子さんは、そこでの生活が、現在のあさみさんの成長に大きな影響を与えているといいます。障害児の自己意欲を高めるための徹底した教育がその理由です。「できるまで待つてあげる。怒らないけどゆずらない。自分でしたいという意欲を育てる」など。憲子さんもまた、障害児を持つ母親としての生き方をここで学んだといいます。

幼稚園でのあさみさんの存在は、周りの多くの子供たちに少しは影響を与えたのではないかと憲子さんは話されます。それは、こんな事件があったからです。

## 自立への挑戦はある日、突然に

そして、憲子さんの頭の中に『手織り』が思い浮かび、それは現実として動きはじめました。

「いと巻き巻き、いと巻き巻き」。憲子さんは、毎日のようにあさみさんに歌い聞かせました。「あさみちゃん、さをりでお洋服作ってみる？」

この問いかけが始まって数日たったある日、あさみさんは「うん」とうなずきました。初めはその返事に耳を疑ったと憲子さんはいいいます。あさみさんのさをりをへの挑戦が始まったのはこのとき、平成五年の秋でした。



あさみさんとお母さんの憲子さん  
(養護学校高等部2年生のころ)

早速、憲子さんは学校に相談。ボランティアで織物を教えている宮崎市の阿萬リヨ子さんに、学校で週一回、一時間の実習をしていただくことになりました。あさみさんは、三カ月間実習しました。憲子さんは、このときのあさみさんの姿について「学校は、勉強をするところだと自覚していたので、一生懸命でした」と話されます。右から左へ舟形の梭(ひ)を渡して、織り機の左ペダルを踏んで、箆(おさ)を手前に引いて「カタン」。折り返して左から右へ梭を渡して、右ペダルを踏んで、箆を引いて「カタン」。この技術を、体が覚えるまで訓練しました。

そして、卒業前の平成六年三月、ついに、あさみさんは、反物を完成させました。その反物は、阿萬さんの手によってタペストリー(壁かけ)に仕上げられました。憲子さんは、それを手にしたとき、全身が震えるような感動を覚えたといいます。「娘のできる



昭和55年7月28日  
新聞紙をハサミで小さく切って、それを上に投げてはしゃいでいた。  
(あさみさんの成長記録より抜粋)

あさみさんが幼稚園に入園して間もないころ、ほかのクラスの園児が『あさみはバカバカ』と言つて、その様子を見ていた同じクラスの子が怒ってけんかを始め、最終的には、バカと言つた園児があさみさんに謝つたのです。その話を先生から聞かされたとき、あさみさんをかばつてくれた子供に、憲子さんは感謝のあまり涙が出る思いだったそうです。

卒園後、あさみさんは町内の小学校、中学校を出て、宮崎養護学校高等部に進学しました。なれ親しんだところを離れたこともあつて、最初のころは、動揺していたといいます。その気持ちを少しでも和らげてやろうと、憲子さんは、毎日、片道六十キロ以上もある道のりを自動車で送り迎えしま

二年生になってからは、気持ちも落ち着き、学校の寄宿舎に泊まる団体生活を始めました。三年生に進級した平成五年の春、憲子さんは、あさみさんの自立の道を求めて、頭を悩ませました。そして、大事にしまつてあつたあさみさんの成長記録を開いて、あることに気づきました。

「ひかり園に通つていた昭和五十五年七月三十日、あさみ四歳の夏。午前中、絵を描いた。形にはなっていないけれど画用紙を三枚も使つた。午後からは、ハサミを使って紙を切つたり、先生と走り回つたりしてはしゃいだ。」  
「そうだ、あさみには、手と目、足を使った仕事に就かせたほうがいいのではないのか。」

ところ、強いところを大切にしてい、少しずつ膨らませていったことで、織りができるようになりました。その初作品に阿萬さんは、稲穂を織り込みました。「この道で生活の糧を得てほしい」という願いを込めて。

高等部を卒業してからもあさみさんは、週二回、宮崎市内のさをり教室に通い、織りを学びました。やがて、しつかりしたリズムで織りあげるようになり、立派な作品を完成させるまでに成長しました。その作品は、都城市早鈴町にある「創品くうくう」で販売されています。

その店主、荒木正気さんは、「障害者とかかわりの中から自らの生き方を見出したい」と四年前に高校教師を辞め、二年前に自宅を障害者の創作、くつろぎ、販売の場として開放されたといいます。

荒木さんは、あさみさんの作品を「こだわりの美」と評します。「あさみさんは、織りでは大変難しいとされる反物の端をきれいにそろえる点にこだわっています。」「ひとつのものにこだわる性格」それは自閉症の症状に見られる特性といわれています。

### 障害者の出ていける場が少ない



創品 くうくう  
店主 荒木正気さん

あさみさんは、織物をする能力が元々備わっていたのでしよう。その能力を引き出してやったのは、母親の憲子さんです。

このように知的障害者が自立の道を歩んでいければよいのですが、現実には厳しいようです。その理由のひとつに、いまの社会がまだまだ知的障害者を受け入れようとしていないことが挙げられます。つまり、知的障害者を弱者として排せきしているのではないのでしょうか。これから、知的障害者が社会に出ていけるような環境を早く築いてほしいですね。

# 自立への挑戦は、これからも続く

あさみさんの仕事場である自宅の玄関先には、「工房あー3」という看板が置かれています。これは、あさみさんとアート(芸術)作品がいつまでも愛(あい)されるようにという願いを込めて、その頭文字「あ」から取ったもので、これからは織物で生きていこうという気持ちで込められています。

その工房から生まれた作品の展示会が、今年一月、NHK宮崎

放送ロビーで開かれ、そして、二月から三月にかけて、都城市内で開かれた「アートのストリート'97」にも出展されました。展示会には、たくさんの方々が来場があり、にぎわったといいます。そして、いま、あさみさんは、国富町の郊外にある「SAORIみやざき」の井野文さんの教室で週一回、指導を受けています。

井野先生の指導方針は、「教え

## 障害者を一人の人間として認めてやる

そして、作品も同じように

SAORIみやざき  
井野文さん



指導する時、障害者だからといって特別扱いはしません。人間と人間の自然な関係を作るためです。そうすることによって信頼が生まれていきます。

私がさをりを始めたのは、17年ほど前です。もともと織物に興味があったことも手伝い、知人の紹介で飛びつきました。さをりは、個人の感性がいかされますから。

あさみさんの作品には、人間の生まれたままの純粋な感性が現れていると思います。わたしは、そのところを高く評価しています。これからは、まわりの人が、織った人を見て作品を評価せずに、作品そのものを評価してほしいですね。

そうすることが、健常者と障害者の対等な関係になっていくのです。

ないでその人の持っている感性を引き出すこと」を基本としています。あさみさんは、教室に行くときに、百数十種類の糸巻が置かれている棚に行き、その日の気分で、糸を選び出します。そして、糸巻から舟型の梭(ひ)に取り付ける糸を必要な長さだけ取りまします。それから織り機に向かいます。調子のいい日は、鼻歌が口をつき、楽しそうに織るといいます。



宮崎養護学校  
寮母 戸高滋子さん

## 社会参加させることが大切

大切です

あさみさんは、養護学校を卒業してから大きく成長したと思います。それは、周囲の人の暖かい支援によって、あさみさんが社会参加しているからです。

障害者を抱える家族は、孤立してしまいがちですが、自分だけで抱えこまずに、社会の中に出でて、共に生きる道を探ることが大切だと思います。



アートストリート '97の展示会場



日本自閉症協会宮崎分会  
分会長  
村木佐和子さん

## 自立に向けて共に

歩むことが大切

私も自閉症の息子を抱えています。ですから、障害者を自立させることがいかに大変かということをも身を持って体験しました。

あさみさんの成長の過程には、家族のみなみならぬ努力があったと思います。

障害児を持つ親として、自立に向けて取り組んでやることはとても大切なことです。



# これからめざす福祉社会『ノーマライゼーション』

あさみさんの自立への道は、いま始まったばかり、まだまだこれからです。

憲子さんは話されます。「娘は、手織りだけでは食べていくことはできません。作業能力に限界があるからです。しかし、娘がさをりと出会って『生きる道』を得たことはよかったです。障害のある多くの人がそれぞれの特性をいかして、社会参加していただきたいと希望します」と。

これから、多くの障害者が社会参加して、自立していくために、私たち一人一人は何をすべきなのでしょう。か。

が『ノーマライゼーション』です。障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で、普通の生活を送れるような条件を整えるべきであり、障害者と健常者が共に生きる社会こそ自然な社会であるとする考えです。これは、世界でも福祉が充実している国のひとつであるマークのバンク・ミケルセンが、精神薄弱者の処遇に関して唱え、北欧から世界へ広まった障害者福祉の最も重要な理念です。

これからは、『ノーマライゼーション』の理念にそって、真の福祉社会をめざすことが、私たちに課せられた使命ではないでしょうか。

上の写真は、ボランティアグループ「ほうれんそう」の活動の様子。あさみさんは、その会員の一人で毎月二回、寝たきり患者の床ずれを予防するために使用するビーズマットを作っています。

# シリーズ 町の歴史

## 三股の50年を探る

(その5)

終戦までの国内の農業は、地主が小作者に耕作させるという、小作制度に基づくものでした。終戦後、昭和20年10月、連合軍最高司令部は、その制度を見直そうと、土地所有の再分配を含む農業機構の民主化、いわゆる農地改革を指令しました。当時の三股村は、農地改革の事業を円滑に進めるために、地主7名・自作3名・小作10名の計20名を農地委員に選び、その任務に当たらせました。そして、昭和26年、「農業委員会法」が制定され、農地委員は、農業委員と改められました。現在の農業協同組合の前身は、昭和18年に「農会」と「産業組合」の組織統合によって発足した「農業会」といわれています。昭和22年11月、「農業協同組合法」によって「農業会」は解散し、新しく、昭和23年7月に「三股農業協同組合」が設立されました。そして、昭和50年2月に「三股農業協同組合」は、広域合併によって「都城農業協同組合」に統合、三股支所として現在に至っています。今月号では、以前、農協職員で、現在、町農業委員会会長の吉川勇さん(74)に戦後の農業の変遷と思い出話などを話していただきました。



昭和25年、デンブン工場にて

りに現物徴収してました。  
**問 稲作の移り変わりについて教えてくださいませんか？**

**吉川** 昭和30年代後半まで、ほとんどの農家で農林18号や瑞穂といった品種を栽培していました。昭和38年ごろだったでしょうか、米の増産運動で、タチカラという品種を佐賀から取り寄せ、奨励しました。しかし、昭和45年以降、生産過剰によって、減反政策が実施されました。

**問 現在、本町では和牛の生産が盛んなのですが、いつごろからこの様な状況になったのでしょうか？**

**吉川** 昭和24年でした。確か、当時の職員は40名くらいだったと記憶しています。農協には、農産指導課、金融課、経済課の三つの課があり、私は農産指導課の米倉庫の仕事に従事していました。

**問 戦後の農業は、どういった農作物の生産が盛んだったのでしょうか？**

**吉川** 甘薯と米の栽培が主でした。甘薯は、デンブン工場で製品化していま

**問 吉川さんが、農協に勤められたのはいつでしょうか？**

**吉川** 昭和24年でした。確か、当時の職員は40名くらいだったと記憶しています。農協には、農産指導課、金融課、経済課の三つの課があり、私は農産指導課の米倉庫の仕事に従事していました。

**問 戦後の農業は、どういった農作物の生産が盛んだったのでしょうか？**

**吉川** 甘薯と米の栽培が主でした。甘薯は、デンブン工場



昭和45年当時の農協三股支所の建物

**問 次に、本町は、ミカンの栽培が盛んだったそうですね。いつごろでしょうか？**

**吉川** 昭和40年ごろだったと思います。当時、高値で取引されていたミカンの栽培を町や農協をあげて推進しました。梶山や宮村、樺山を中心に栽培目標面積を二百ヘクタールに定めていました。しかし、十数年後、価格が低迷したことから、ミカンの木を伐採して、他の作物に転換してしまいうことになりました。ミカンにまつわることで、おもしろいことがあります。その

**問 ほかに、本町の農業の歴史の中で忘れてはならないものがございますか？**

**吉川** 養蚕でしょうか。昭和30年代後半から40年代初めにおいて盛んでした。五本松住宅や稗田の周辺は、見渡す限り桑が栽培されていました。今では想像もできないでしょう。また、長田の長原台地には、養蚕団地が設けられました。しかし、価格の低迷によって、数年間で養蚕農家戸数は減りました。

**問 次に農協の歴史で思い出はございますか？**

**吉川** 昭和25年から26年にかけて、資金繰りの悪化によって、農協の再建整備が行われました。人員整備によって、たくさんの方が解雇されました。私は、解雇されませんでした。半



昭和39年ごろの芋収穫

**問 最後に、これからの三股町に対する期待やご意見を聞かせてください。**

**吉川** 現在、三股町は、年々人口が増加していますが、地域によっては、過疎化しているところもあります。均衡のとれた町づくりを行なってほしいと思います。一方では、都市化が進み、住民間の連帯意識が薄れているところもあると伺っています。お互いが助け合っ



**吉川 勇さん**  
大正12年2月15日生まれ。  
昭和24年4月、三股農業協同組合に勤務。第1デンブン工場長、農産課長を経て、昭和54年3月都城農業協同組合三股支所畜産課長を最後に退職。  
昭和54年6月から平成8年5月まで都城農業共済組合理事、昭和62年6月から平成5年5月まで同組合副組合長理事。  
平成3年7月、町農業委員会委員、平成8年7月から同委員会会長。平成4年4月から第2地区公民館長、現在に至る。

## ■ 紙面国際交流コーナー ■

# 民族衣装

ジェーソン・ウィリアムス

網かけの部分が英文にしております。  
中学生、高校生の皆さん英文を訳してみましよう！



台湾からの留学生、簡瑞豊さんです。先月、三股にホームステイしました。

三股の夏は、どこに行っても、蟬の鳴き声がうるさいですね。母国のイギリスは、蟬が全くいません。初めて聞いたのは、三年前、京都に留学した頃でした。寮に住んでいて、朝、目が覚めた時、窓の直ぐ外で鳴いていました。寮の近くに電柱があったので、蟬の鳴き声を知らなかった私は、電流の音だと思っていました。

今月は、服の話を書きます。大量生産のせいかもしれませんが、現代人の着る服は、多様性が段々減ってきていると思います。来日してから特にそう感じます。いろんな国を回って、最も嘆くことは、一般の人が母国に伝わる民族衣装を特別な祭り以外は着ないということです。日本もそうです。こう言うと、『着物は時間がかかるし、大変よ』という声が聞こえてきそうです。

民族衣装と言えば色々あります。一つの例として、作務衣を取り上げましょう。(このワープロで、さむえを押す場合は、サム柄が出ます!) 作務衣は着やすいし、とても気楽です。古人が知恵を生かして出来上がった服だなあーという気がします。

これとは対照的に、西洋のシャツとネクタイはどうでしょうか。どちらも二百年ぐらい前にヨーロッパの上流社会から出来上がったもので、当時は、それらを着ていると身分が判ったそうです。

ズボンのベルトと同じように、ヨー

ロッパでできた服は、窮屈なものが多いですね。シャツとネクタイは、首を絞めるようで、人間を守る自然本能に反するような気がします。服は、気楽に着れるということが一番大事だと思います。二百年前のヨーロッパの貴族は身分を誇ることを目的にして、ネクタイやシャツ、ハイヒールなどを無理して着ていました。それがヨーロッパの一般社会と世界の隅々まで普及していきました。

日本ではお寺の僧侶以外は、めったに作務衣を着用している光景を見かけません。宮崎に来てから、作務衣を着ている人を見かけたことは、わずかに二回です。一人は外国人で、もう一人は、都城で講演をした中年の方でした。とても気持ち良さそうで、作務衣は昔のいいものだなとつくづく思いました。

### Let's Have a Go

Recently I saw the uniforms of junior high and high schools of Vietnam. I was impressed that they were traditional clothes. I have no idea why the uniforms of the same students in Japan, especially the girls' ones, were chosen. When I look at pictures taken in the Meiji period there are many people wearing traditional clothing and I think to myself, 'ah, this is the form which was created in Japan'.

When I work in Japan I wear the same clothes as I would in England. However if it was the Meiji period the Japanese around me would surely be wearing traditional clothes, so I would definitely change to the "traditional side." By the way I have my own "samue" and I often wear it outside of working hours. During aikido practise I wear "hakama" and it feels very comfortable.

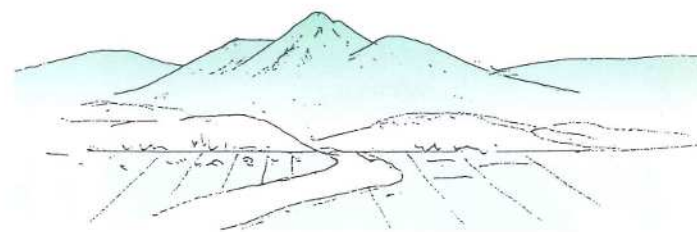
I would sometime like to introduce to England this ancient wisdom of Japan in the form of clothing.

ベトナムの中学校と高校の制服を最近見ましたが、それは伝統的な服で感動しました。日本の同じような学生、特に女性の制服は、どうしてそれが選ばれたのか見当もつきません。明治時代の写真を見ると、和服を着ている人が多く『あっ、これこそ日本が作った姿だな』と思います。

日本で仕事をする時は、イギリスにいる時と同じ服を着ていますが、仮に明治時代だとすれば、回りの日本人は和服を着ているはずなので、私も絶対『和服派』になるでしょう。ちなみに、作務衣は一着持っています。勤務時間以外はよく着ます。合気道の稽古をする時も袴をはいて、気持ちいいですよ。

イギリスにいつか昔の日本の知恵を服の形で導入したいですね。

## ふるさとへの便り



田中淳子 (54)

(旧姓 三浦 山王原出身)

故郷の山川に別れを告げて、早三十年経ちます。

三股の皆様の中には、知人、友人、親戚の方が多くいらっしやいます。ご無沙汰いたしております。

実家には、母一人静かな老後を過ごしていますが、皆様には、日ごろよりお世話になり、迷惑をかけているのではないかと、改めて深くお礼申し上げます。

三股にいた二十年間を思い出せば、走馬灯のごとく、次々と思いが浮かびます。春は、早馬神社のお祭り、桜、そしてピンクのじゅうたんを敷き詰めたようなレンゲ畑、夏は、山田川や鉄橋の下で、メダカすくいをしたり、一日中泳ぎまわって真っ黒に日焼けしたものです。

高校の思い出といえば、汽車通学のことです。定期券を手にした時は、少し大人になったような感じがして、うれしかったことや、よく寝坊をしては、息を切らし、やっとの思いで汽車に飛び乗ったこと、たくさ

んの汽車通の友達ができることが思い出されます。

現在、毎年秋に、大阪方面で暮らしている高校出身者の集まりを開いています。その時ばかりは、先輩後輩仲良く、まるで学生に戻ったみたいになります。

私は、高校を卒業して約一年半、役場に勤務しました。去年、近畿三股会の結成の折には、町長さんや議長さんがお越しになり、大変お世話になりました。それから数ヶ月が経ち、お礼をかねて、今年の春、退職して三十数年ぶりに役場を訪れました。役場の皆様が暖かく迎えてくださり、私も退職せずにあのまま役場に残っていたら、今ごろはどの課の席に座っていたのだらうなあーと少しセンチメンタルな気分になりました。



大阪駅から京都に向かうと、ひとつ目の駅が新幹線の発着する新大阪駅です。ここから、全国への駅から歩いて十五分のところに我が家があります。どこへ行くにも便利なところなので、すっかり腰を落ち着けてしまいました。勤務先の会社の窓からは、新大阪駅のプラットホームが見えます。夜にな

誇り高い教育のまち三股に生を受け、二十歳の青春までを順調に過ごせたのは、母のお陰だと、深く感謝しています。私の家庭は、父親がいなかったため、母は、人一倍厳しい姿勢で教育されました。お陰で、私も、子、孫を持つ身となり、少しでも母の足元に近づけたらと思っています。今、その母も八十八歳の米寿を迎えました。母にとっては娘、私の姉が福岡で他界して、丸八年経ちます。母は、姉の分まで長生きしてもらいたいと念じております。御盆には、義兄一家、弟一家、わが家族、総勢二十五人が集まり、盛大に米寿のお祝いをする計画です。

話は変わりますが、ここで我が家の紹介をいたします。大阪駅から京都に向かうと、ひとつ目の駅が新幹線の発着する新大阪駅です。ここから、全国への駅から歩いて十五分のところに我が家があります。どこへ行くにも便利なところなので、すっかり腰を落ち着けてしまいました。勤務先の会社の窓からは、新大阪駅のプラットホームが見えます。夜にな

と、西鹿尾島行きの寝台車に乗り込もうとする人々を見ることがあります。その時、あの汽車に乗ると宮崎に帰れるのだなあーと郷愁に誘われます。

次に、家族ですが、主人は、北陸、福井県の出身です。子供は、一男一女、息子は独身で、娘は嫁いで、現在、奈良県に住み、二人の子供に囲まれ幸せに暮らしています。私ども夫婦は、その孫に会うために、奈良に行くのが一番の楽しみです。

三股町にいた年よりはるかに大阪が長くなりました。元気でいる限り、人のために役立てればと思いい、近畿三股会の世話役をさせて頂きました。後に続く足がかりになればよいと思っています。これから、近畿三股会の会長夫妻の野崎さんを支援していこうと思っております。

来年は、町制五十周年、おめでとうございます。ますます三股町が発展することを祈りつつ私の便りいたします。

平成九年七月



がんばれーがんばれー  
町小学校水泳大会

町教育委員会と町小学校体育連盟が主催する「町小学校水泳大会」が7月22日、三股西小学校で開かれました。大会には、町内6つの小学校から5・6年生の代表児童約350名が参加。照り付ける日差しのなか、日焼けした児童は、日ごろ練習した成果を十分に発揮して、白熱した戦いを繰り広げていました。なお、競泳タイムが県の示す標準記録を上回った場合、県から認定証が贈られることになっています。

自然を学ぶために役立ててください

勝岡小学校を昭和44年3月に卒業した男性で構成する厄年会（会長 佐沢一成 会員21名）は、厄払いを記念して、このほど同校校舎裏側の小高い丘陵地、自然教育学習場「みどりヶ丘」に、学習用黒板を兼ねた掲示板を設置して贈りました。みどりヶ丘には、数十種の樹木が植えられており、年間を通じて野鳥観察や樹木についての学習、野外給食などが行なわれています。小学校の関係者は、「この学習用黒板を野外教育に大いに利用したい」と話していました。



日赤奉仕団が義援金募金活動

町日赤奉仕団（団長 太田親宏 団員55名）は、7月27日、町内3箇所の店先で、鹿児島県出水市で発生した土石流災害義援金の募金活動を行ないました。当日は、真夏の日差しが照り付ける暑い1日でしたが、団員は午後3時から約3時間あまり、買い物に訪れた客らに募金を呼び掛けました。この活動によって集められた義援金は、町を通じて、早速、日赤宮崎支部に届けられました。義援金の募金にご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

小・中学生、味噌と豆腐づくり初挑戦

勝岡にある殿岡生活改善センターで、7月23日から24日までの2日間、中学生1名と小学生4名が味噌と豆腐づくりを行ないました。5名の子供のうち3名は、夢池の北村加津子さん宅を訪ねて、母親と一緒に大阪から遊びに来ていたもの。子供たちは、5名の大人に混じって、汗をいっぱいかけながら奮闘していました。その中の1人、大阪の富田林中学校2年の米田實くんは、「味噌づくりは、いつまでも忘れない夏の思い出になりました」と感想を述べていました。



明るい社会を築くために  
社会を明るくする運動月間中の7月10日、町内3箇所の店頭で、町保護司会（会長 小倉昭男 会員8名）、町更生保護婦人会（会長 中西初子 会員60名）、青少年育成町民会議、町青少年補導員会（会長 盛田藩 会員60名）の合同によるキャンペーンが行われました。当日は、4つの団体から50名が参加。買物に訪れた主婦らに、チラシやタオル、うちわなどを配り、明るい社会づくりの協力を呼び掛けました。なお、このキャンペーンは、犯罪や非行のない明るい社会を築こうと毎年この時期に実施しているものです。

差別のない住みよい社会をめざして

町は、8月の「人権啓発強調月間」を前に、7月28日に役場会議室で町人権推進協議会総会を開きました。総会には、協議会の役員に任命されている、町議会や各種民主団体の代表者ら27名が出席して、これからの事業について協議しました。今年度は、新たに、小・中学生に対して人権啓発のポスターを募集するほか、町内12の児童館で、啓発ビデオを放映することが決まりました。なお、今年度は、世界人権宣言の採択から50年目にあたります。



町をもっと知るために

町内の主婦ら5名で構成するいきいき女性アドバイザー（代表 和気智子）は、7月12日、町内の主要施設（一般廃棄物処分場や都北衛生センターなど）や史跡を町のマイクロバスを使って研修する『町のいとこめぐり』を実施しました。この催しは、町の歴史や文化、環境問題について女性の立場で考えてもらおうと、今年初めて企画したもので、町内の主婦ら30名が参加。参加者の一人で、上新にお住まいの迫田ハツ子さんは、「町内の施設や史跡をめぐったのは初めてのことで、とてもためになりました」と感想を述べていました。

むだ遣いしないで、  
しっかり貯めましょう！

町は、夏休みを前に、町内の6つの小学校の1年生児童318名に貯金箱を贈りました。これは、幼いときから貯蓄の大切さを身につけてもらおうと、16年前から行なっているものです。7月18日、山元町長は、梶山小学校を訪ね、児童一人一人に貯金箱を手渡し「むだ遣いをしないで、少しずつお金を貯めて、欲しい物を買うときに遣いましょう」とあいさつ。1年生児童7名は、貯金箱を手に、うれしそうな表情を浮かべ、大きな声で「ありがとうございます」とお礼を述べました。



## 新刊図書の紹介

【一般向】  
龍平の現在 川 田 龍 平  
風花抄 白 洲 正 子  
戦国夜話 遠 藤 周 作  
日本の「私」からの手紙 大江 健三郎  
ほか10冊

【小中学生向】  
一つの花 今 西 祐 行  
ヤンボウニンボウトンボウ全十巻 飯 沢 匡  
NHKやってみようなんでも実験全五巻  
小宮山 民 人  
くたばれかあちゃん 山 中 恒  
ほか6冊

【幼児向】(かみしばい)  
ぬまのぬしからののがみ 望 月 新三郎  
めだらけ 滝 本 つみき  
でいだらぼっち 津 谷 タズ子  
いったんもんめん 古 山 広 子  
くれよんさんのけんか 八木田 宣  
ほか4冊

## お知らせ

### ○映画会の開催

■日 時 9月13日(土)午後2時～  
■場 所 中央公民館2階  
■内 容 幼児～小学生向けアニメ

### ○本の利用は無料です!

図書館にある本の利用が有料だと思っている方がいらっしやると聞きますが、図書館にある本の利用は無料です。町民の尊い税金によって購入されるわけですから、おおいに利用していただきたいと思ひます。

※一人5冊まで2週間借りられます。

### 9月の休館日(中央公民館図書室)

	日	月	火	水	木	金	土
I		1	2	3			
II		8	9				
III	14	15	16				
IV	21		23				
V		29	30				

※数字は休みの日

### ○リクエストお待ちしております

現在、町では総合文化施設の建設準備中です。特に、図書館では今後2年間で3万冊以上の本を購入する計画です。そこで、町民の方々からこういった本を購入してほしいという要望があれば、図書室までご連絡ください。

三股町中央公民館図書室 ☎52-1111



**ナイトシアター大好評!**  
7月26日(土)の夜、子ども向けのアニメの上映会を実施しました。当日は、約60名の参加があり、「次回はいつですか」「また来ます」などの反応があり好評でした。

**A** 私には、長崎県の出身で、結婚してから三股町にやってきま



西畑 直子さん

**Q** 現在、ぶどうの会(お話し会)の代表ということですが、活動されるきっかけは?

**A** 現在は、ぶどうの会(お話し会)の代表という事です。私には、長崎県の出身で、結婚してから三股町にやってきま

**A** 子どもたちに本に親しんでもらう機会を作ってほしいで

**Q** 図書館の利用は?

**A** 2年前までは、町の中央に住んでいたため利用しやすかったのですが、今は蓼池ということ

**Q** 図書館の利用は?

**A** 2年前までは、町の中央に住んでいたため利用しやすかったのですが、今は蓼池ということ

**楽しいひとときを過ごしませんか**  
ぶどうの会では、毎週水曜日、午前10時から中央公民館で、幼児を対象にした絵本の読み聞かせを行っています。興味のある方はぜひ一度、お子様連れでお越しください。

す。特に、小学生対象の読み聞かせをぜひお願いします。それと新しい図書館ができて新しい本が少なければ意味がありませんので、たくさん本を購入してください。そして、図書館から遠い地域の町民のために移動図書館を実施していただきたいと思ひます。



## 温泉掘削工事始まる

町は、平成7年度から進めていた温泉開発について、探査調査の結果、上米精米所の裏側の町有地が有望であることが分り、温泉掘削工事に着手しました。その起工式が、7月16日、町議会や地元住民ら約60人の出席のもと開かれました。式では、山元町長が杭打ちを行った後、関係者がそれぞれ玉串を奉てんし、工事の安全を祈願しました。工期は、来年の3月まで、掘削震度は、1,700メートル、総工費は、1億3,500万円です。将来は、町民の健康増進、地域活性化を目的に、多目的な活用を目指します。

## 河川をもっときれいに

町は、7月20日の午前7時から河川をきれいにしようと「クリーンアップみまた」を開催しました。この催しは、昨年まで開かれていた大淀川流域フェスタに代わるもので、町の河川浄化推進員や町内のボランティアグループ、地域の壮年部など22の団体や個人、約320名が参加。沖水川、年見川、萩原川の河川沿いに捨てられているごみ拾いをしました。わずか2時間ほどの作業でしたが、空き缶や発泡スチロール、ペットボトルなど約1.5トンが集められ、参加者は、「こんなにゴミが捨てられているとは思いませんでした」と驚きを隠しきれない様子でした。



## 納涼大会盛大に開催

特別養護老人ホーム「三光苑」(園長 島田亀男 入苑者50名)は、7月29日、「5回納涼大会」を開きました。この日、苑には、入苑者の家族やひまわり保育園児とその家族など約400名が訪れ、舞台上で繰り広げられる演技や夜空に打ち上げられる花火を楽しみました。なお、今回の納涼大会には、町内の寝たきりの高齢者5名が招待され、町内の福祉関係者で構成している「高齢者のケアマネージメント調整会議」の方々の協力により送迎していただいたそうです。関係者の話によると、5名の皆さんは、涙を流して喜んでいたといひます。

## ボランティア貯金加入者3,000人

三股郵便局(局長 園田紀隆)は、8月5日、国際ボランティア貯金加入者3,000人を記念して、協力賞と記念品を贈りました。受賞したのは、蓼池にお住まいの主婦、森妙子さん。受賞の喜びを、「3,000人目選ばれ、大変うれしいです。これからも、いろんな形でボランティアに協力していきます」と語っていました。なお、この貯金は、開発途上国の福祉向上に役立ててもらうために郵便局の通常貯金の20%を寄付していただくもので、平成3年1月から取り扱いを始め、今年の3月末で、全国で2,194万人、九州で263万人の方が協力されています。







### おしらせ

#### 募集

##### 第2回「童謡まつりinみまた」参加者募集

昨年、好評を博した童謡まつりが開催されます。  
幼いころ口ずさんだ童謡やわらべ歌を、ご家族、友人お揃いで歌ってみてはいかがでしょう。

■日時 10月26日(日) 午後1時～

■会場 三股西小学校校体育館

■参加資格 町内外を問わず2名以上の団体

■申し込み方法 参加負担金千円を添えて、直接、町教育委員会生涯学習課に申し込んでください。

■申し込み締切り 9月16日(火)まで

※先着30団体になりしだい締め切ります。  
問い合わせ  
〒889-119  
三股町五本松1番地1  
三股町教育委員会  
生涯学習課  
☎52-1111内線353

※作文も募集しています。  
童謡にまつわる懐かしい思い出・体験などございましたらハガキに書いてお寄せください。まつりで紹介します。

##### 第5回国保グランドゴルフ参加選手募集

■日時 9月25日(木) 午前8時20分～

※雨天の場合26日に順延

■会場 旭ヶ丘運動公園陸上競技場

■参加資格 三股町に在住の方

■参加料 無料

■申し込み 9月17日(水)までに役場福祉保健課へ

☎52-1111内線132  
※当日受け付けもできます。

##### 平成10年度宮崎県産業開発青年隊員募集

募集人員  
○施工管理課程(1年生)  
・男子77名  
・女子8名  
○専攻課程(2年生)  
・男子23名  
・女子2名

募集期間  
9月1日(月)～9月30日(火)

問い合わせ  
宮崎県建設技術センター  
☎0985-185-11515  
(社)宮崎県産業開発青年協会  
☎0985-185-13889

##### 平成9年度後期技能検定

受検受付  
9月29日(月)～10月13日(月)

実施職種  
機械加工、さく井、建築配管、電子回路接続など32職種

問い合わせ先  
宮崎県職業能力開発協会  
☎0985-158-11570  
宮崎県商工労働部 労政能力開発課

##### 税金

##### 災害による所得税の減税

震災、火災、風水害などの災害によって、住宅や家財(生活に通常必要な資産に限られます)などに損害を受けたときは、①雑損控除による方法、②災害減免法による方法のどちらか有利な方法により、所得税の全部または一部を軽減することができます。災害に遭ったときの税金のことでお分かりにならないところに、お気軽にお訪ねください。

都城税務署  
☎22-4377  
宮崎税務相談室  
☎0985-24-9380

**8月の納税 町民税 保険税**  
詳しくは 役場税務課へ 52-1111

##### 催し

##### 山之口町

●村おこし朝市  
日時 9月14日(日)午前7時～  
会場 JR山之口駅前広場  
内容 農産物・特産品販売  
問い合わせ  
役場企画開発課  
☎57-13111

##### 高城町

●第17回高城町観音池まつり  
日時 8月31日(日)午後1時～  
会場 観音池公園子ども村  
内容 花火大会など  
問い合わせ  
役場商工観光課  
☎58-2311

##### 末吉町

●航空自衛隊西部航空音楽隊公演  
日時 9月13日(土) 午後6時30分  
会場 末吉町文化センター  
問い合わせ  
末吉町文化センター  
☎76-7100

## 三股中学校創立50周年記念情報

### 三股中の部活動はいま②

#### 県中学校総合体育大会 ソフトテニス男女優勝

7月号で紹介しましたように、三股中は、10本の地区優勝旗を勝ち取って県大会に出場しましたが、その中で、ソフトテニス男女アベック優勝しました。九州大会にも期待が持てます。

野球も1回戦の勝利で波に乗り、決勝戦まで進み、美々津中に惜敗しましたが、九州大会への出場権は獲得しております。九州に名をとどろかせてほしいものです。

また、惜しくも勝ち上がれなかった部も来年度の活躍を胸に期して、もう今から練習に汗を流しています。

さて、その他の部では、バドミントン準優勝、弓道男子3位で九州大会に出場します。また、プラスバンド部が7年ぶりに金賞を獲得し、部



員たちも大変喜んでいました。次に個人の部では、

ソフトテニスで、松山・黒肥地組、本村・松下組、福田・洪田組。バドミントンで、山元・永野組、月野・飯田組。陸上三段跳びで、森和也君。水泳平泳ぎで、武永朋哉君が出場します。

写真は、県大会での北諸原那選手団の堂々たる入場風景です。大半は、三股中生。プラカードを持つのは、本村さん、団旗を持つのは西原君です。(中尾教頭先生談)

### その他

#### 農場への出入りの際は、消毒をしましょう

台湾の養豚農家で、口蹄疫(海外悪性伝染病)が発生し、多大な被害が出ています。この病気は、牛、豚、羊、山羊等の口蹄疫ウイルスが感染して起こるもので、伝染力が極めて強く、最も恐れられている伝染病です。

本県も台湾に地理的に近いため十分な警戒が必要です。農場に出入りする際は、所有者の許可を受けて、必ず消毒をして出入りしてください。

#### 都北視聴覚ライブラリーからのお知らせ

グループや団体で使用する16ミリ映写フィルムとビデオテープを無料で貸し出します。※16ミリフィルムは、映写操作免許取得者のみ

開館 月曜から金曜 午前9時30分～ 午後4時30分

※祝祭日は、休館です。

場所 市立図書館西側

問い合わせ  
町中央公民館  
☎52-1111内線191  
都北視聴覚ライブラリー  
☎21-2565

#### 愛の献血

7月の献血協力  
三股町役場65名(来庁者含む)  
都城運転免許センター 30名  
都三シティひろせ 20名  
ご協力いただきありがとうございます。

#### 愛の寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明けを次のとおりいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。

平成9年7月1日から  
平成9年7月31日まで

寄付者	続柄	故人名	地区	金額
二宮 幸雄(妻)	ハツ	80	下新	5万円
野口 吉熊(妻)	ツルミ	79	夢池	5万円
原田 不男(母)	キタエ	80	東植木	3万円
工藤 直(義母)	坂元フミ	87	上新	20万円
森 亨(義母)	油谷タツ	86	下新	5万円
上 ユク(母)	エイ	96	前目	5万円
内村 貞幸(義母)	下村ミエ	78	山王原	3万円
俵 寿勇(母)	吉子	84	下新	3万円
檀原 政次(母)	シヅエ	80	樺山	3万円